平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	28	都道府県・指定都市名	兵庫県
学校名（生徒数）	兵庫県立三田祥雲館高等学校(827 人)		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：兵庫県三田市学園１丁目１番地
電話番号：079-560-6080
研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL：http://www.hyogo-c.ed.jp/~shoun-hs/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：４高等学校
○研究対象教科等：地理歴史科
○研究のキーワード：「テーマ探究型」学習，科目間連携，資料活用，歴史的思考力
○研究成果のポイント：

① 生徒の自主的な学習活動(個人・班別による調べ学習や発表など)を計画的に授業に取り入れ，評価活動を工夫することによって，生徒の学習意欲が高まり，「思考力・判断力・表現力」が深まる傾向がみられた。

② 地理歴史科の担当教師が，科目間の教育内容のつながりや関連性を協議し，お互いが授業で活用する資料を工夫することによって,効率的な授業改善を継続して行うことができた。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

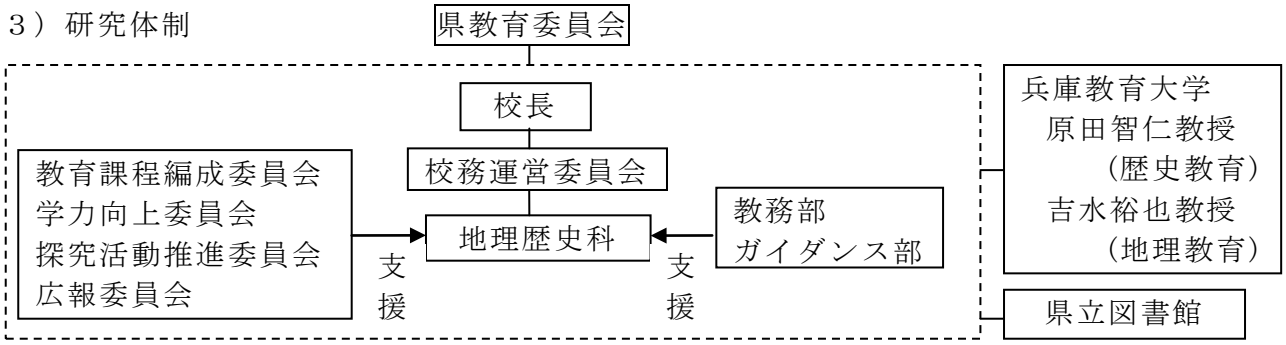
歴史関連科目と地理関連科目における資料の活用を通した連携

（２）研究主題設定の理由

本校でこれまで行われてきた授業は，教師による講義主体の，穴埋め型プリントによる教え込み中心の授業であった。このため，歴史的・地理的事象の機械的な暗記だけを生徒に強いる結果となり，学ぶ意欲を減退させ，学ぶ意義も見出せない生徒が増えつつあった。

そこでこの研究では，①歴史関連科目と地理関連科目の学習内容のつながりや関連性をつかませる資料を授業で活用すること，②生徒が主体的に取り組めるような学習活動を年間学習指導計画に段階的に位置付けて実施することとし，これらを通して，③生徒の歴史的思考力と地理的な見方や考え方を総合的に育成することを目指した授業づくりと評価の在り方を検討した。

（３）研究体制



（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	◇世界史Ａ ４～５月「諸地域世界と交流圏」：世界遺産や生活に視点をおく学習 ６～７月 テーマ学習１「世界遺産から見る世界史」(班別学習) ：世界遺産旅行をプロデュースする ９～10月「一体化に向かう世界・現代の世界と日本」：人物に視点をおく学習 11～12月 テーマ学習２「人物クローズアップ(決断と行動を考える)」(個人学習) ：人物歴史新聞を作成する ◇地理Ａ ４～５月「地域区分における地理と歴史の重層性」(古地図の活用) ６～７月「気候環境の変動と歴史」 ９～10月 テーマ学習「世界の諸地域調査」(ポスター発表) 11～12月「世界の難民問題の現状と課題」

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

① 生徒の主体的活動によるテーマ探究学習を積極的に導入
- 幅広く探究活動ができるよう図書館や情報教室の利用
- 兵庫県立図書館との連携(「テーマ別セット貸出」の活用)

② 歴史関連科目は地理的条件，地理関連科目は歴史的背景を踏まえた学習を計画
- 地図や統計などを活用し，地理的条件を関連付けた歴史授業の展開
- 年表や古地図，史料を活用し人々の営みを歴史的背景から捉える地理授業の展開

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

① 学習過程の評価や課題，考査問題を工夫するなど，多様な評価活動を取り入れることで,歴史的思考力や地理的な見方や考え方の育成状況を見取ることが可能になった。

② 教師が地理歴史科として組織的に取り組むことで，教師間の連携や共通理解が深まり，効率的な授業改善を継続して行うことが可能になった。また，地理歴史科の取組が，他の校務分掌や他教科にも波及し，協働して研究に取り組む体制ができ，学校全体の教育力向上の一助となった。

（２）研究成果の意義等

「総合的な学習の時間」(本校では「探究Ⅱ」としている)において，本研究での学習成果を生かし，主体的に課題研究に取り組む姿勢が見られた。また，学校設定科目として位置付けている「探究Ⅲ」においても，同様の成果が期待できる。

（３）指定期間終了後の取組

① Ａ科目を中心に，生徒が主体的に取り組むテーマ探究学習を継続して実施する。その中で，地理的条件や歴史的背景を視野に入れた地理歴史科科目の学習を行う。

② 探究活動の出発点である価値ある「問い」を生徒が見出すために，日常的な授業において，教師が生徒に「問い」を投げかけたり，「問い」を生徒に抱かせたりするなどの工夫をしていく。

③ 資料活用については，情報の読み取りだけでなく，必要な情報を取捨選択したり，資料そのものの価値を吟味したり,それらをもとに解釈したりする活動も取り入れる。

④ 本校が設置する学校設定科目である「歴史研究入門」や「地域学」及び「探究Ⅲ」においても，地理歴史科科目との連携を図り，同様な取組を行う。

⑤ 「総合的な学習の時間」等で行う探究活動においても，現代社会の諸課題について歴史と地理の両面から学習に取り組めるよう配慮する。